

(前頁より)

札幌医科大学ご卒業後の救急医療開始から宮崎医科大学と岡山大学における救急医学講座の新たな立ち上げの中でのご苦労とそれに打ち勝つ方策から、将来の救急医療の有り様をお示し下さいました。また、シンポジウムも「救急医学の現状と課題－救急医療におけるマネジメント－」とし、岡山赤十字病院救命救急センター長の實金 健先生の座長の下、救急医師、救急看護師、医療安全担当看護師、事務部からの演者の皆さんにそれぞれの視点から興味あるご発表をいただきました。

今回の支部学術集會のもう一つのポイントは、支部学術集會としては初めてランチョンセミナーを開催したことでありました。昨年10月の第5回大会は、新型インフルエンザが猛威を振るっていた最中で、「新型インフルエンザに対する今回の対応と今後の対策について－インフルエンザで死なないために－」のシンポジウムが組まれました。そこで、今回の流行が終焉しつつあるこの時期に、神奈川県警友会 けいゆう病院小児科部長でWHO新型インフルエンザ薬物治療ガイドライン委員をされています菅谷憲夫先生にお願いし、「2009 H1N1 Influenza 流行の特徴と治療」のご講演を賜りました。世界各国の状況を加味して作成されるWHOの治療方針とわが国の状況での治療方針との違いなど、会員一同大変勉強になりました。紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。

最後に、当日は極めてタイトなスケジュールの中、260名の方に参加いただき、活発なご討論を賜りましたことと、学術集會開催に当たり頑張ってくれた当院スタッフに感謝して、開催報告とさせていただきます。

(文責：岡山市立市民病院院長代理 東 俊宏)

第10回福岡支部学術集會

当番世話人：北九州市立医療センター副院長 有馬 透



会場風景

2010年2月20日(土)、北九州市小倉北区の北九州国際会議場にて「医療の質と効率性の両立を求めて」をテーマとして第10回日本医療マネジメント学会福岡支部学術集會を開催しました。

内容は一般演題41題、クリティカルパス展示10題、特別講演2題で、学会員・非学会員合わせて248名の参加を得ました。一般演題は診療業務1～3、医療情報、地域連携、医療安全1～3の計8セッションで発表が行われ活発な討論がなされましたが、演題数多数のための時間不足が反省点として挙げられます。クリティカルパス展示では例年通り参加者の投票により優秀演題3題が表彰され

ました。特別講演は小さな診療所所長・京極新治先生の「在宅医療は緩和ケア～在宅緩和ケアと小児在宅ケア～」と北九州市立大学教授・松尾太加志先生の「医療安全と安全文化」で、前者は病院医療から在宅医療へ橋を架ける講演であり、後者はわれわれのマンネリ化した医療安全感覚をもう一度目覚めさせるお話でした。これを機に医療マネジメントの精神・実践が地域で確固たるものになるよう願っています。

第10回東京支部学術集會

学術集會会長：東京通信病院院長 木村 哲



会場風景

第10回東京支部学術集會は、木村哲東京通信病院院長を会長として、2010年2月27日(土)に開催されました。会場は、千代田区飯田橋の東京通信病院管理棟の5、6、7階で全3会場を使って行いました。

「医療の質の向上をめざして」をメインテーマとして、会長講演：木村哲「診療関連死「医療安全調査委員会(仮称)」のゆくえ」、特別講演：近藤達也先生「PMDAの改革と今後の展望」、シンポジウム：谷島健生先生、長谷川友紀先生、上田茂先生「医療の質を考える」、ランチョンセミナー1：谷澤正明先生「改定DPCの概要と厚労省DPCデータの活用法」、ランチョンセミナー2：古川恵一先生「抗菌薬の適正使用と感染対策－聖路加国際病院での取り組み－」、一般演題34題と盛りだくさんの内容となりました。

あいにく、朝から冷たい雨が降る悪天候で、参加者の出足が心配されましたが、最終的には、162名の参加者を得て、活発な討論が繰り広げられ、予定の時間を超過するセッションが続出しました。有意義な学会となりましたことをご参加の会員の皆様に深く感謝いたします。

(文責：東京通信病院眼科部長 松元 俊)

第10回長崎支部学術集會

学術集會会長：日本赤十字社長崎原爆病院院長 朝長万左男



会場風景

2010年2月27日(土)に「日本医療マネジメント学会第10回長崎支部学術集會」を長崎ブリックホール国際会議場にて開催致しました。

今回は、「地域で支える医療 ～長崎からの発信～」をテーマとし、187名の方にご参加頂きました。